

令和5年度「東北大学学校ボランティア」活動報告

稲垣 悟・後藤 武俊
東北大学大学院教育学研究科

本稿は2003（平成15）年より活動を継続している「東北大学学校ボランティア」事務局（以下、学校ボランティア）の2023（令和5）年度の取り組みを報告するものである。

1. 活動の概要

学校ボランティアは、東北大学大学院教育学研究科・先端教育研究実践センターの事業の一貫として行っている取り組みであり、同研究科の後藤武俊准教授を顧問とする事務局を設置して運営している。COVID-19の流行を契機に事務局機能をオンライン上へ移行しており、現在は東北大学の大学院生1名が所属して活動を行っている。

事務局は仙台市教育委員会（以下、仙台市教委）と提携しており、仙台市教委が市内の小中学校のボランティア要請を集約したものを、事務局が受け取り、ボランティア活動を希望する学生に対し周知を行う。今年度はGoogle Classroomを活用し、活動を希望する学生を招待することで、ボランティア要請状況の周知と活動希望にかかる手続き（詳細は後述）を一元的に管理する体制とした。他に、仙台市教委との連絡ならびに活動を希望する学生個人との連絡については、事務局および事務局員のアドレスを用いて電子メールで行っている。

学校ボランティアの募集・招待は、広報資料および本研究科先端教育研究実践センターの管理するホームページを用いて行っている。広報資料については、オリエンテーションでの配布と、本研究棟内でのポスター掲示を行った。いずれも本事業の概要と連絡先を記載したものであり、活動を希望する学生には事務局へメールを送信してもらうことで、案内の返信とともにGoogle Classroomへの登録を行っている。

ボランティア活動に際しては、仙台市教委の実施する研修会への参加ならびに「登録カード」の提出が必要となる。今年度は仙台市教委より配布された研修動画および資料をGoogle Classroomに掲載し、ボランティア活動を希望する学生が随時視聴できるようにした。また併せて「登録カード」の提出先を同ページに設けており、希望する活動があればカードを記入・提出し、事務局へその旨連絡することとしている。

2. 2023年度ボランティア活動状況

本節では、2023年度の仙台市教委からのボランティア要請状況と、本学学生のボランティア活動状況を報告する。

2-1. ボランティア要請

今年度、本学において学生に周知したボランティア要請は70件であった。このうち50%にあたる35件は、仙台市教委より5月中旬にまとめて送付されたため本学での周知開始にあわせて掲載しており、残る半数は要請を受け次第、適宜追記して掲載し周知を行った。また、申請期限が設定されていた要請については、期限を迎えたものから順に掲載を取り下げている。

なお仙台市教委では、ボランティア要請が以下のように分類されている。

表1 仙台市教委からのボランティア要請の分類

A①	各教科における指導補助
A②	総合的な学習の時間における指導補助
A③	特別活動（学校行事、クラブ活動）、道徳等の指導補助
A④	情報教育における指導補助
A⑤	学校図書館における指導補助
A⑥	放課後や休み時間等における児童生徒の話し相手、相談相手
A⑦	部活動指導補助
A⑧	そのほか、必要になる活動
B	にこにこボランティア
C	すくすくボランティア

上記分類の中で、Bのにこにこボランティアは「学校生活の中で配慮を要する児童に対する継続的、定期的な支援を行うボランティア」とされており、「大学で教職課程又は心理学を履修した者、又は履修している者」を対象とするものである。他方、Cのすくすくボランティアは「発育測定や保健室（に）において直接児童生徒に係る支援（括弧内筆者）」とされ、「養護教諭免許取得に必要な科目を履修した者、又は履修している者」を対象としている。東北大学および大学院では養護教諭免許取得に必要な科目を開講していないことから、Cのボランティアについては掲載を行っていない。

ボランティア要請の資料には「活動の具体」および「備考」欄が設けられており、学校ごとにより詳細な活動内容やボランティア学生の希望条件が示されている。事務局ではこれらを図1のようにまとめ、PDFファイル化して掲載を行っている。

2-2. 本学学生の活動状況

今年度のボランティア活動者は8名、Google Classroomへの登録者は28名であった。ボランティア活動に参加した学生の所属および人数は、表2の通りである。

学校名	仙台市立 ○○ 小学校
活動期間・時間	○時○分～○時○分
人数	○名
対象学年	○学年
活動内容	(A①、Bなど)
活動の具体	△△△
回答の期限	令和5年○月○日(○)
備考	△△△。

図1 ボランティア要請のとりまとめ形式

表2 所属ごとのボランティア活動者数

	学部・研究科	人数(名)
学部	教育学部	2
	文学部	2
	理学部	1
	工学部	1
	計	6
大学院	教育学研究科	1
	国際文化研究科	1
	計	2
総計		8

3. 活動の振り返りと今後の課題

最後に、学校ボランティア事業の運営を行う事務局として、今年一年間の活動を振り返り、今後のより良い活動のために課題と来年度への抱負を述べる。

稲垣

今年度、はじめて事務局員を務めました。ボランティアに参加される方々あつての活動ですが、日々楽しみながら情報の管理や仲介をさせていただきました。

活動状況をまとめてみると、Classroomへの登録者数と活動者数の開きが明らかになりました。登録いただいた方をうまくボランティア活動への参加に繋げるという点では、ボ

ランティア要請の掲載の仕方に、エリアごとにまとめるなどの工夫があると良かったかもしれません。より良い情報提供の工夫を探っていきたいと思います。

後藤

今年度は事務局員として M2 の稲垣悟君を迎え、仙台市教育委員会および仙台市内小中学校と活動希望学生との橋渡しを担ってもらった。いつも丁寧な文面でやりとりを頂き、大変心強い思いであった。記して感謝したい。

なお、教育委員会からの依頼は随時届くため、その内容を常に反映させつつ、古くなった情報は削除するという作業は、修士論文執筆中には負担が大きかったかもしれない。今後も、簡素化できる部分は可能な限り簡素化し、事務局員への負担を軽くできるように作業フローを見直していきたい。